

プログラム	黒島小中学校サービスラーニング		
実施者	佐世保市社会福祉協議会、佐世保市立黒島小中学校（義務教育学校） 前期課程 8名 後期課程 5名（主に前期課程4年生2名が実践）		
関係機関	佐世保市保健福祉部地域福祉推進室、生活支援コーディネーター、 黒島地区コミュニティセンター		
実施期間	令和6年7月9日～令和7年3月5日	科目等	総合的な学習の時間 (20コマ ※1コマ45分間)
事例の概要	自分が住む地域について考えることで、地域の課題を自分事として捉え、課題解決に取組み、地域の一員として貢献できることを学ぶ。	事業費	20,000円
実施した背景	従来の体験型の福祉教育に加え、新たな取組みとして「サービスラーニング」の手法を取り入れ、子ども達が自ら地域課題を発見し、課題に向き合い、考えを深め、地域の一員として行動する意識を育むことを目的とした。	目的の達成状況	子どもたち自身も地域の課題を知り「自分たちの住む地域がもっと良くなるように自分たちでできることやサポートをしていきたい」と地域の一員として自覚を持ち課題に向き合い行動することができた。
発案者	<input checked="" type="checkbox"/> 社協 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 <input type="checkbox"/> その他（ ）	発案時期	令和 6 年 3 月頃
関係者	社協 4人 学校 2人 行政 2人 施設 0人 その他（地域住民、保護者） 30人 （ボランティア） 1人	協議時期	令和 6 年 6 月頃
導入準備	①期間 令和6年3月～令和6年7月 ②関わった人 6人 <input checked="" type="checkbox"/> 社協 <input checked="" type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 施設 <input type="checkbox"/> その他（保護者） ※詳しい情報は、こちらから 佐世保市社会福祉協議会・黒島小中学校（導入準備）		
導入（概要）	「講話」で自分が住んでいる地域を知り、「グループワーク」の中で黒島の将来について考え、様々な意見や思いがあることに気づき、家族に「学習したことを伝える」ことで自分が住む地域の現状について学びを深め、行動するきっかけをつくる。 ※詳しい情報は、こちらから 佐世保市社会福祉協議会・黒島小中学校（導入）		
実践（概要）	島民へアンケートを取り、結果から地域の課題を抽出・分析し、〈交通〉〈社会性〉〈命を守るために〉の3つにグループ分けし、その課題に対して自分たちにできることを考え、準備と報告を行う。 ※詳しい情報は、こちらから 佐世保市社会福祉協議会・黒島小中学校（実践）		
所感（概要）	学校と連携を図り、オンライン会議や電話で情報を共有しながら企画から実践までを行うことができた。サービスラーニングに取組み、子どもたちが地域の方の思いや住んでいる地域について考える機会となった。 ※詳しい所感は、こちらから 佐世保市社会福祉協議会・黒島小中学校（所感）		
リンク	佐世保市社会福祉協議会・黒島小中学校（リンク） ※HPや広報誌等事例の参考になるもの。		

黒島小中学校サービスラーニング（導入準備）＜佐世保市社会福祉協議会＞

①期間 令和6年3月 ～ 令和6年7月

②関わった人 6人 社協 学校 行政 施設 その他（保護者）

③導入準備内容・スケジュール

日	コマ数	対象	項目	内容
R6.1.11			視察研修	宮崎県日向市社協
R6.1.29	2コマ	前期課程	黒島小中学校 ふくし教育	①講話（ふくしについて・地域の歴史について・ 支えあい活動について） ②グループワーク（自分たちにできることは） ③ふりかえり
R6.3.28			黒島小中学校と意見交換会	①ふくし教育のふりかえり ②小中学校における福祉教育に関する実態調査 報告について ③次年度の取組について
R6.4.9			内部協議	サービスラーニングプログラム内容について
R6.5.13			黒島小中学校長と面談	①令和5年度のふりかえり ②令和6年度の取組み内容について ③ふくし教育推進校指定事業について
R6.6.18			黒島小中学校とWEB会議	①令和6年度の取組内容 ②第1・2回プログラムについて

④実施計画

概要	時期等	学習方法とねらい
①	◆導入 1学期 4～7月 (2コマ)	『自分の住む地域を知る』 内容：①「ふくし」を知り、黒島の現状を学び、自分が暮らす地域について理解を深める。（人口・ 高齢化率・産業・交通・公共施設・観光） ②自分が知っている黒島について意見を出し、黒島の将来について予想する。意見を発 表し、気づきを共有する。 ③学習したことを家族へ伝え、黒島のことについてインタビューを行い、様々な意見がある ことに気づく。 (ねらい) 自分が住む地域の現状について学びを深めることで、黒島の将来について考え、行 動するきっかけをつくる。

<p>②</p>	<p>◆体験</p> <p>2 学期 9 月～ 12 月 (13 コ マ)</p>	<p>『作戦会議』 内容：調査準備。興味のあることやインタビューしたい内容を決め調べたい事柄を明確にする。</p> <p>『地域探検』 内容：地域活動者へインタビューを行い、黒島に長年住んでいる人の思いや島外から来た人の思いを知る。</p> <p>『課題分析』 内容：地域探検の結果をまとめ、員阿多ビュー内容や結果を共有し、地域の課題を抽出する。解決したい課題を決める。</p> <p>『支援会議』 内容：課題の原因や要因を探し、解決するために自分たちに何ができるか考える。解決するための行動計画（アクションプラン）を立てる。</p> <p>『実践』 内容：計画に沿って問題解決のための実践（地域貢献活動）を行う。必要に応じて地域の人と一緒に行動する。</p> <p>(ねらい) 地域住民の思いを知り、地域課題を考え、原因や要因を掘り下げることによって、自分たちにできることを考えるきっかけをつくり、行動へつなげる。</p>
<p>③</p>	<p>◆振り返り</p> <p>2 学期 12 月 (5 コマ)</p>	<p>『ふりかえり』 内容：活動の報告書を作成し、活動の成果・効果・変化の見える化を行い気づきの共有をする。</p> <p>『活動報告会』 内容：保護者や地域住民に向け報告会を行い、伝える力を高める。新たな気づきや発見を促し、学びを深める。</p> <p>(ねらい) 実践の結果を整理し、分析・評価を行う。活動の報告を行うことによって、地域全体に学びを広げる。</p>

④	<p>◆発展</p> <p>3 学期 1～3 月 (コマ数は 学校と相 談)</p>	<p>『市内探検』 内容：島内にはないバリアフリー・ユニバーサルデザインなどを見つけ体験する。</p> <p>『市への提言』 内容：学習したことや自分たちの意見を島外の人に伝える。</p> <p>(ねらい) 島内にはない、まちの中で誰もが利用しやすいように工夫されているところを発見する。 黒島の現状と自分たちの取組みを島外の人へ伝えることで地域の一員としての自覚を得る。</p>
---	--	--

黒島小中学校サービスラーニング（導入）＜佐世保市社会福祉協議会＞

①日時 令和6年7月9日

②場所 黒島小中学校

③関わった人 23人

（ 社協 学校 行政 施設 その他（保護者） ）

④活用した機材・準備物

・PC ・スクリーン ・プロジェクター ・模造紙 ・ふせん ・マジック ・テープ

⑤内容 ・講話「ふくしを知る」ふくしについての理解を深める

「黒島を知る」黒島の現状を学び、自分が暮らす地域について理解を深める。（人口・高齢化率・産業・交通・公共施設・観光）

・グループワーク 自分が知っている黒島について意見を出す、黒島の将来について予想する

・ふりかえり・まとめ

・自宅学習（保護者へ向けて）学んだことを伝える、黒島のことについてのインタビューを行う

プログラム（実践）	コマ数	内容
プログラム① 「自分の住む地域を知る」	2	前回のふりかえり・グループワーク

プログラム①「自分の住む地域を知る」



「ふくし」について考える



「ふくし」について基本的なことを理解し、これからの学習の意味や内容を考えました。

黒島をもっと好きになる



地域の方から黒島の話聞いて、自分が住んでいる地域について理解を深めました。



自分が知ってる黒島は?



自分が知っている黒島ことをグループで意見を出し合いました。

意見の共有



グループで出した意見をまとめ、みんなで共有することで様々な意見があることに気づきました。



未来の黒島を予想する



黒島の将来をみんなで予想しました。「人がすくなくなっている」「へいわになっている」など、いろんな意見が出ました。

~今後の展開~

- 「地域探検（調査）」
- 「地域課題の分析会議」
- 「活動計画の作成・実践」など



子ども達の意見によりそった支援を行っていきます

(参考：させぼ社協だより第123号)

黒島小中学校サービスラーニング（実践）＜佐世保市社会福祉協議会＞

①日時 令和 6 年 7 月～令和 7 年 3 月 5 日

②場所 黒島小中学校、地域、佐世保市内、佐世保市役所、佐世保市社協、
ボランティアセンター

③関わった人 30 人

(社協 学校 行政 施設 その他 (地域住民、ボランティア))

④活用した機材・準備物

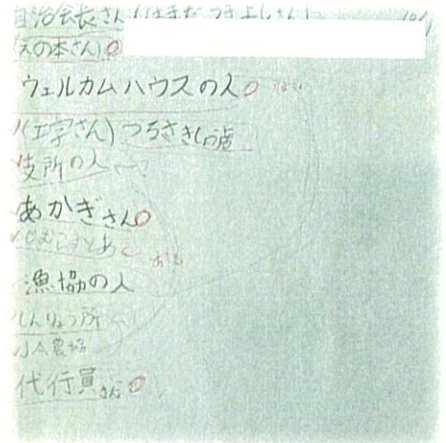
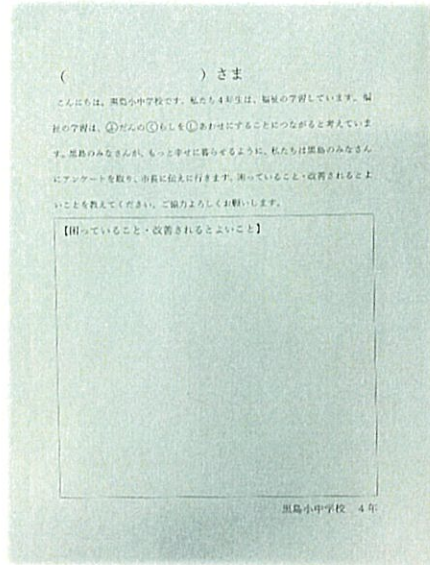
特になし

⑤内容

プログラム（実践）	コマ数	内容
プログラム② 「作戦会議」	2	前回のふりかえり・グループワーク
佐世保高等専門学校講話	1	視覚障がい者のための開発について
プログラム③ 「地域探検」	3	地域活動者へインタビュー
プログラム④ 「課題分析」	2	課題の抽出分析
プログラム⑤ 「支援会議」	3	行動計画
プログラム⑥ 「実践（報告）準備」	3	実践（報告）準備
プログラム⑦ 「ふりかえり」	4	報告書作成
佐世保市内探検		ボランティアセンター訪問
プログラム⑧ 「活動報告」		佐世保市社協会長へ報告

プログラム②「作戦会議」

こんにちは。
 黒島小中学校です。
 私たち4年生は、
 福祉の学習をしています。
 福祉の学習は、
 ふだんの暮らしを
 しあわせにすることに
 つながると考えています。
 黒島のみなさんが、
 もっと幸せに暮らせる
 ように、私たちは黒島
 のみなさんにアンケートを
 取り、市長に伝えに行きます。困っていること・改善されると
 よいことを教えてください。ご協力よろしく申し上げます。

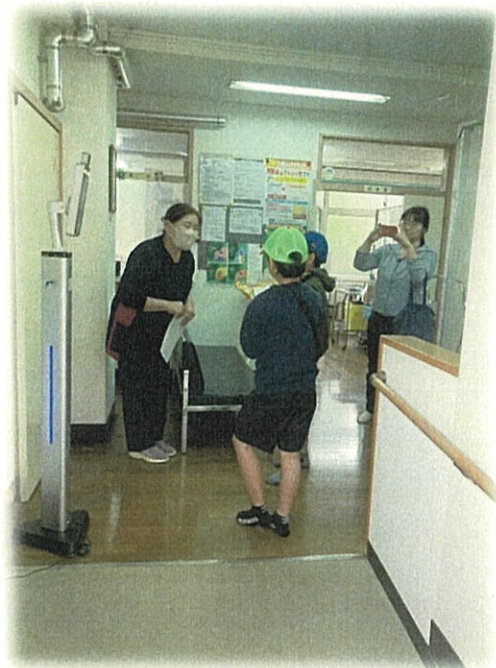


<アンケート対象者>

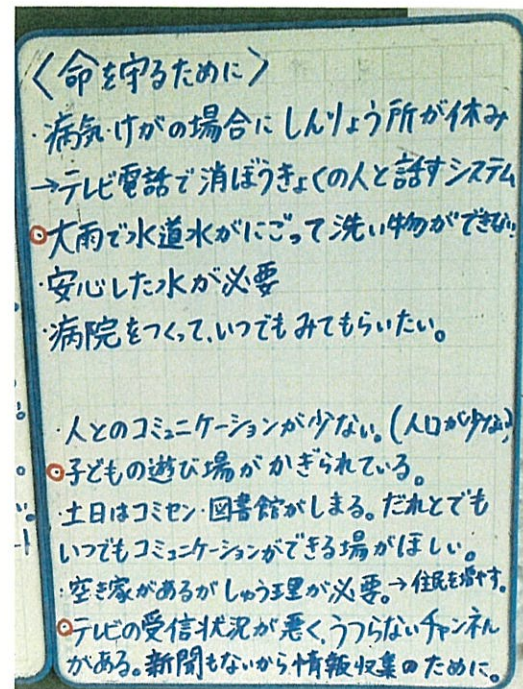
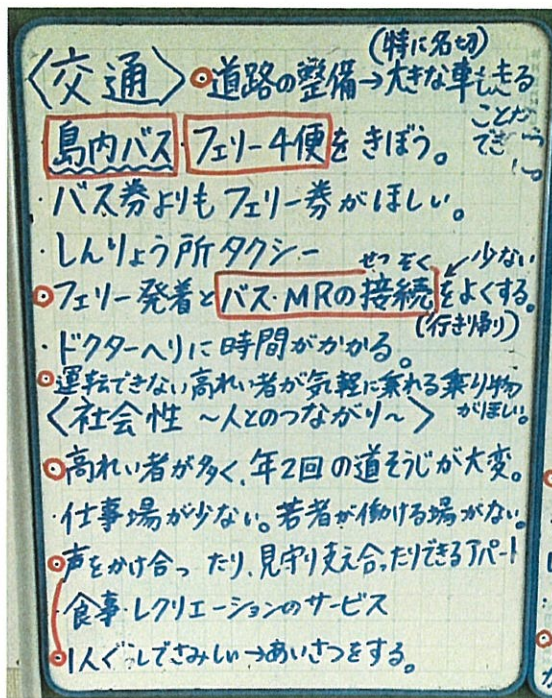
- ・自治会長
- ・ウエルカムハウス
- ・商店 ・診療所 ・個人
- ・支所 ・JA 農協
- ・漁協 ・代行員
- ・地域おこし協力隊

プログラム③「地域探検」

地域探検では黒島内を探検しながら
 地域の活動者や出会った住民にアン
 ケートを依頼し、情報を集めた。



プログラム④「課題分析」



アンケート調査した結果を<交通><社会性><命を守るために>の3つにグループ分けし、課題の抽出・分析を行った。

抽出した課題

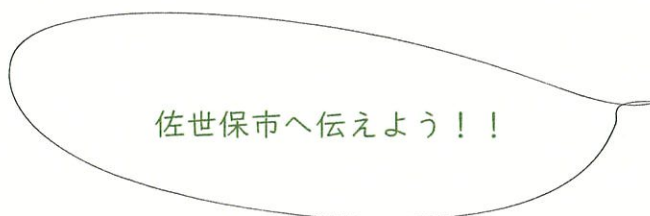
- ①交通フェリーの便が少ない
- ②島で働く場所がないので人が来ない
- ③島にバスがない(島での交通手段)
- ④若い人がいない



プログラム⑤「支援会議」

みんなのふだんのくらしがしあわせになるように自分たちに何ができるか

⇒佐世保市に自分たちの活動内容と黒島の課題と自分たちの考えについて伝えること。



プログラム⑥「実践（報告）準備」

当初、島内で課題を解決するための実践を想定していたが、学習を進める中で自分たちにできることのひとつとして佐世保市へ伝えることを目標に、それに向けての準備を行った。

⇒佐世保市社協より佐世保市地域福祉推進室へ黒島小中学校の取組みを報告する場を相談、協議を行った。市へ提言するために今後さらに学習を深める必要がある。

⇒佐世保市社協内部で協議を行い、まずは佐世保市社協の会長と職員へ報告する機会を作るようになった。

プログラム⑦「ふりかえり」

1年間を通してのプログラム実践のふりかえりと気づきの共有。

プログラム⑧「活動報告」

佐世保市社協職員に向け、これまでの活動の報告と質疑応答。

追加したプログラム

①佐世保高等専門学校講話

視覚障がい者の方のための装置の開発について学生より講話をしてもらった。

②佐世保市内探検

佐世保市役所内や佐世保駅構内、公共交通機関でのバリアフリーやユニバーサルデザインを見つけた。

ボランティアセンターを訪問し、ボランティアと交流することで福祉について理解を深めた。

黒島小中学校サービスラーニング（所感等）＜佐世保市社会福祉協議会＞

1、所感

①黒島小中学校の教頭先生

昨年度のふくし教育から「ふだんのくらしをしあわせに」という部分が柱となっており、普段の暮らしがもっと良くなるためにはどのようなことがあるか、最初は個人の思いから始まり、学習の中で島民の思いを知り、課題をまとめ、みんなの願いを伝えようとしている。

今回、子どもたちが自分たちで地域の課題に向き合ったことで、自分たちが考えていた課題と地域住民（島民）のみなさんの考える課題にギャップがあることを感じ、より生活に密着した課題を知ったことで、自分たちに何ができるか考え動くきっかけになった。

②佐世保市社会福祉協議会

- ・小学4年生がどこまで理解できるのかという部分や学校のスケジュールに応じたプログラムについて先生にご助言いただく等、学校と連携を図り、情報を共有しながら企画から実践まで行うことができた。
- ・地域の方にアンケート調査を行い、子どもたちが地域の方の思いを知り、自分たちが住む地域について考える機会となった。
- ・離島の学校であるため、定期的にオンライン会議や電話で進捗状況や今後の活動について協議をしていたが、学校のスケジュールや子供たちの学習ペースに合わせ実践を進めていたこともあり、実践の状況を確認できていない部分があった。

2、今後の取り組みについて

- ・黒島小中学校と実践についてリフレクションを行い、今回のふくしの学びを更に深めるプログラムを検討する。
- ・今回出た課題について探究し、その課題に向き合い、自分たちにできることを考え、計画を立て行動できるよう学校と連携しながら進めていく。
- ・市の地域福祉推進室、学校教育課と連携を取り、サービスラーニングの他校への展開方法を検討する。